

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書（XXII）



2020. 3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群史跡整備推進事業」の令和元年度事業概要報告書である。
2. 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3. 発掘調査及び保存整備の実施地点は、下記のとおりである。
 - 西都原 101 号墳：宮崎県西都市大字三宅字東立野 4700 番 9（保存整備）
 - 西都原 115 号墳：宮崎県西都市大字三宅 4802 番地（発掘調査）
 - 第 1 支群横穴支群：宮崎県西都市大字三宅字原口 3943 番 1（発掘調査）
4. 本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主事 留野優兵が担当した。
5. 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目 次

第 I 章 発掘調査及び整備の経緯	1
第 1 節 既往の整備事業	
第 2 節 西都原古墳群史跡整備推進事業	
第 II 章 西都原 115 号墳の発掘調査	3
第 III 章 第 1 支群横穴墓群の発掘調査	3
第 IV 章 西都原 101 号墳の保存整備	5

第 I 章 発掘調査及び整備の経緯

第 1 節 既往の整備事業

西都原古墳群は、1912（大正元）年から1917（同6）年にかけて、我が国最初の古墳の学術的・組織的調査が実施された後、1934（昭和9）年5月1日に国の史跡に、1952（昭和27）年3月29日には、特別史跡に指定された。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約58万㎡に及んでいる。そして、1966（昭和41）年から1969（同44）年まで、最初の『風土記の丘』として整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から1993・1994（平成5・6）年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、1994年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき1995（同7）年度より新たな整備事業に着手している。1995（平成7）年度から2002（同14）年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（1997（同9）年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。その後、2003（平成15）年度から2007（同19）年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事などを実施し、2008（同20）年から2013（同25）年度には「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の事業名で、46・47・201・202・284号墳の発掘調査や46・47・202号墳の墳丘復元工事などを実施した。2014（同26）年度から2018（同30）年度には「西都原古墳群調査整備活性化事業」の事業名で、101・265・陵墓参考地周辺・第1支群横穴墓群の発掘調査や100・171・206号墳の再整備などを実施した。

第 2 節 西都原古墳群史跡整備推進事業

宮崎県教育委員会では、2018（平成30）年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、2019（令和元）年度より標記事業に着手している。

当該事業は、発掘調査及び整備保存の継続によって西都原古墳群の基礎的理解を深め、その価値を具現化することを目指し、それにより古墳群に対する県民の広い理解を形成し、史跡の保存と継承を実現するために、発掘調査や調査終了古墳の整備保存、見学施設の再整備などを計画している。

2019（令和元）年度は第1支群内で確認された横穴墓群について、墓道の規模・形状、平面的な分布状況の確認を目的とした発掘調査を実施したほか、第3支群の西都原115号墳において大正調査の再検証、墳丘構造の解明を目的とした発掘調査を実施した。また2015（平成27）・2017（同29）年度に発掘調査を実施した101号墳について、墳丘周辺の環境整備を実施した（第1図）。



第1図 発掘調査・復元整備古墳の位置図

第Ⅱ章 西都原 115 号墳の発掘調査

西都原 115 号墳は、第 3-A 支群の南東部、4 号地下式横穴墓を有する西都原 111 号墳の西側に位置する円墳である。1913（大正 2）年の第 2 次調査で、鳥居龍蔵らにより「一号塚」として埋葬施設が発掘され、鉄製短甲や大刀、鉄鏃などが出土したと報告されている。また、地中レーダー探査により墳裾部に地下式横穴墓が存在する可能性も指摘されている。そこで、2019（令和元）年度、墳丘構造の確認、大正調査の再検証、地下式横穴墓の有無の確認を目的として発掘調査を行った。

発掘調査では、大正調査坑の再調査のために墳頂に調査区（1 トレンチ）を設定するとともに、墳丘構造の確認のために墳裾から墳頂にかけて 2～7 トレンチ、地下式横穴墓の確認のため 8 トレンチを設定した（第 2 図）。

1 トレンチでは上端南北 3m・東西 3.4m、下端南北 2.5m・東西 2m、深さ 1.6m の大正調査坑を確認した。調査結果を記した碑石は現地地表下 1.3m で出土した。調査坑内部の埋土をふるいにかけて、鉄製短甲の破片と考えられる鉄片が見つかった。

2～7 トレンチでの調査の結果、115 号墳の墳丘は残存している一段目葺石最下部の間で東西 25m、南北 26m の規模であることが判明した。5 トレンチ以外では、二段築成の縦目地を基準に積まれた葺石と平坦面を確認した（写真 1～3、5・6）。5 トレンチで検出した葺石（写真 4）は、横目地を基準として明確な平坦面を持たず、墳裾から斜面を覆うように積み重ねられていた。今回の調査では、縦目地と横目地の切り替わり方や位置を明らかにすることができなかつたため、墳丘構造の確認は今後の課題となる。明確な周溝は 4 トレンチのみで検出している。南東の 6 トレンチでは、一段目葺石上の流出土から 2 個体の須恵器壺の破片が出土した（写真 7）。

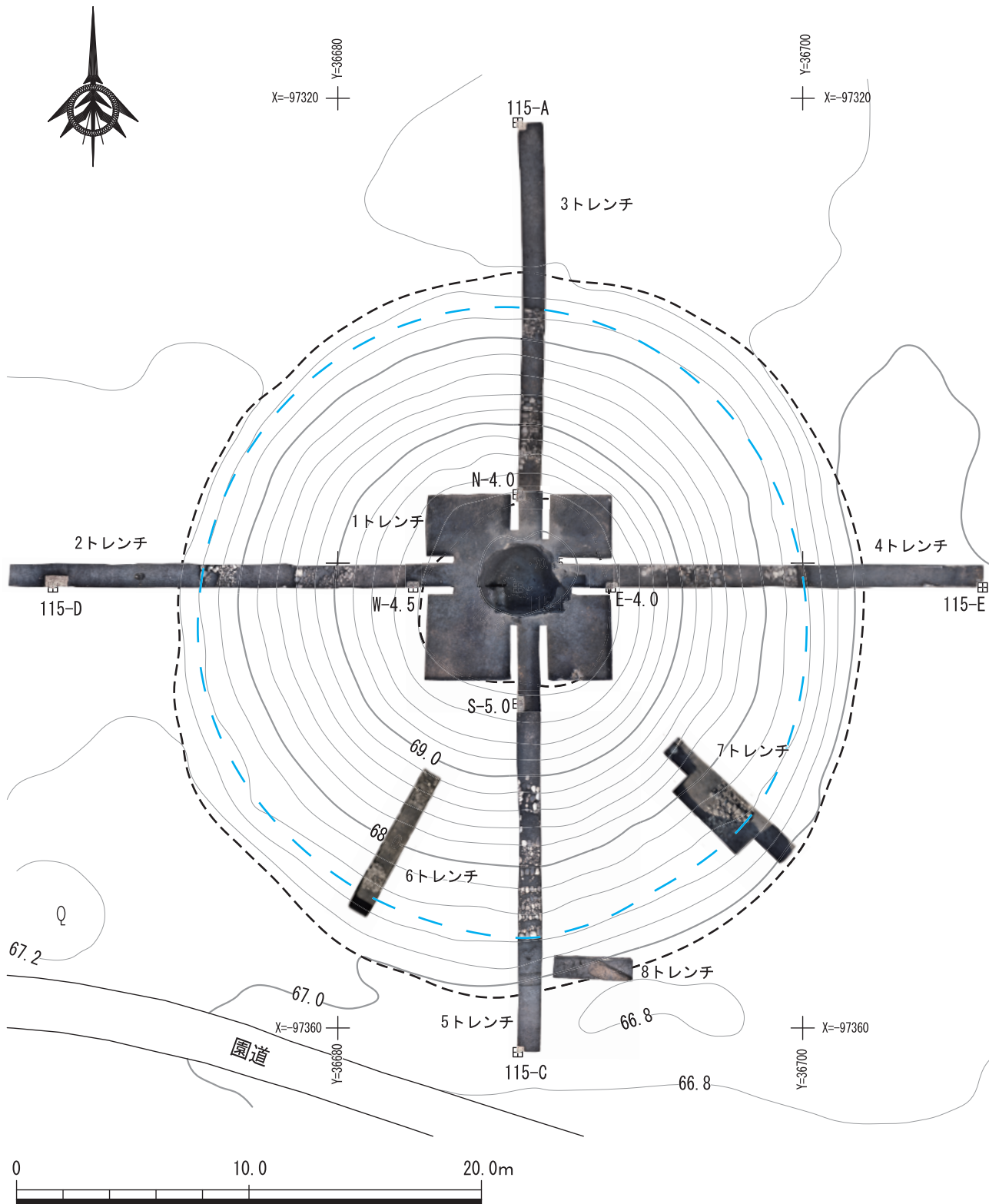
なお、地中レーダー探査の結果、地下式横穴墓の可能性が考えられる反応を得ていた場所に設定した 8 トレンチにおいて、地下式横穴墓の堅坑らしい遺構は確認できなかった。

第Ⅲ章 第 1 支群横穴墓群の発掘調査

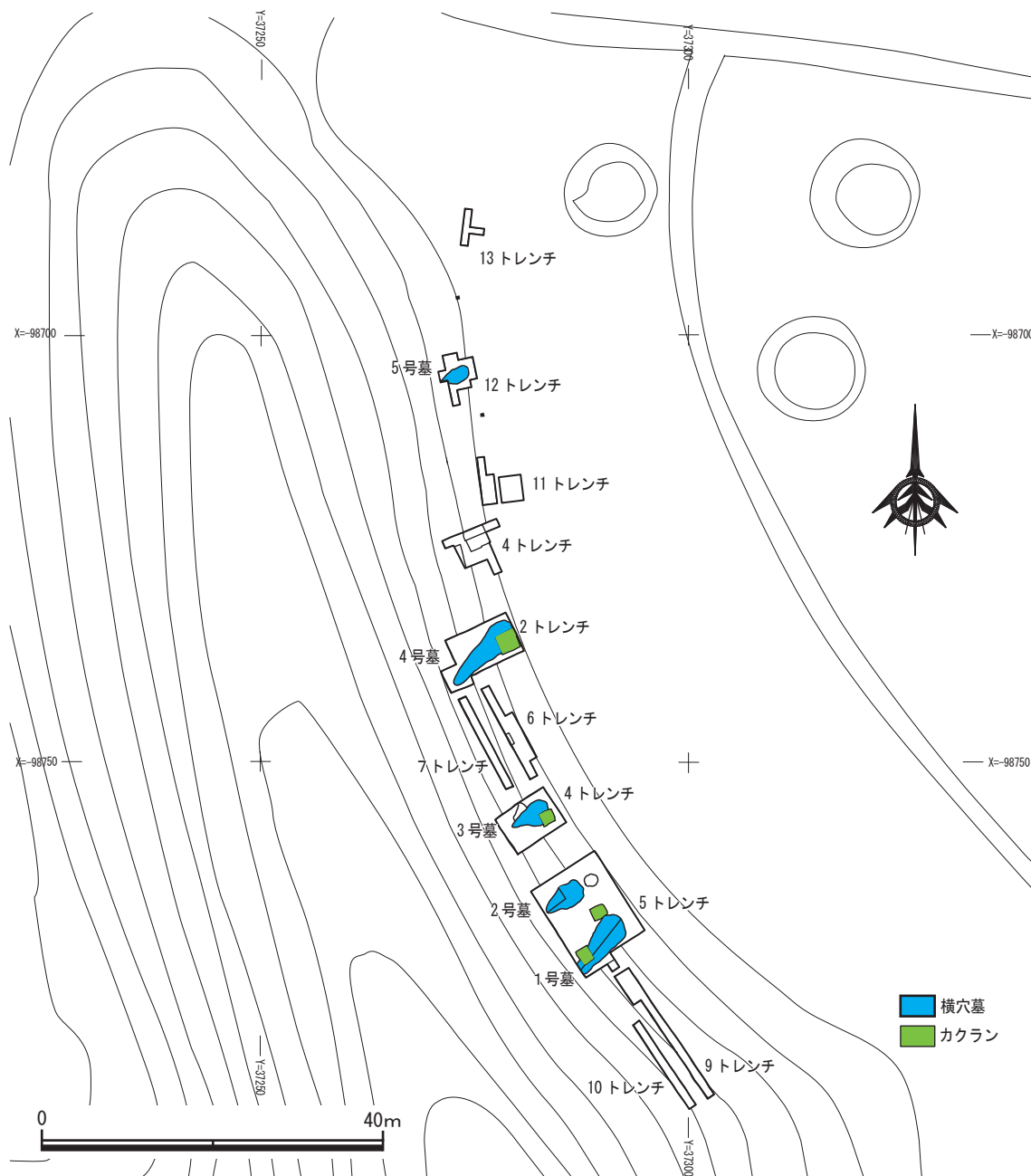
第 1 支群の中央付近に存在する谷の東縁辺では、地中レーダー探査によって横穴簿の玄室と考えられる空洞反応が得られていたことから、2017・2018（平成 29・30）年度に発掘調査を行い 4 基の横穴墓の墓道を確認した。また、天井が崩落していた 2 号墓の玄室については内部の調査をおこなった。2019（令和元）年度の発掘調査では、2018 年度に同じ谷筋の北側で地中レーダー探査を実施した結果、複数の反応が得られたことから、新たに反応があった場所を対象に 11・12・13 トレンチを設定し、横穴墓の有無の確認を目的として調査をおこなった。

調査の結果、12 トレンチで南西方向に主軸が傾いた長さ 4m・幅 1.9m の墓道（5 号墓）を新たに確認した（写真 9）。11・13 トレンチでは横穴墓は確認できなかった。13 トレンチで反応地点を掘削したところ、アカホヤ層の下に堆積する黒褐色粘質土で集石を検出した。

2017～2019 年（平成 29～令和元）年度にわたる調査の結果、第 1 支群横穴墓群では 5 基の横穴墓を確認した。



第2図 西都原115号墳調査区配置図(1:250)



第3図 第1支群横穴墓群 横穴墓位置図 (1 : 800)

第IV章 西都原 101号墳の保存整備

101号墳は、西都原台地東縁部に沿って展開する第2支群の北東端に位置する。2015（平成27）・2017（同29）年度の発掘調査で、西都原古墳群では2基目の方墳であることが確定したほか、墳丘の形態や樹立された埴輪の様相などにおいて、それまで唯一の方墳とされてきた171号墳（女狭穂塚の陪塚）と密接な関係が想定されるなど、きわめて重要な意味を持つ古墳であることが明らかとなった。そのため、墳丘の盛土復元によって方墳であることを明示し、部分的な葺石や埴輪の復元も行うことで101号墳の重要性を示すこととした。

工事は2018（平成30）・2019（平成31・令和元）年度の2か年にわたって実施し、2019年度には古墳前面の不陸整正、樹木伐採、解説盤の設置を行った。



写真1 西都原115号墳 2トレンチ
葺石検出状況（西から）



写真2 西都原115号墳 3トレンチ
葺石検出状況（北から）



写真3 西都原115号墳 4トレンチ
葺石検出状況（東から）



写真4 西都原115号墳 5トレンチ
葺石検出状況（南から）



写真5 西都原115号墳 6トレンチ
葺石検出状況（南西から）



写真6 西都原115号墳 7トレンチ
葺石検出状況（オルソ画像）

写真7 西都原 115号墳 7トレンチ
須恵器出土状況（南東から）



写真8 西都原 115号墳 大正調査坑
被覆石材検出状況（北東から）



写真9 第1支群横穴墓群 12トレンチ
5号墓 墓道検出状況（東から）



報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき さいとばるこふんぐん ほくつちようさ・ほぞんせいびがいはうほうこくしよ							
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書							
副書名								
巻次	X X II							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	留野 優兵							
発行機関	宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）							
所在地	〒880-8502 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号 （〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670）							
発行年月日	2020（令和2）年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さいとばる115ごうふん 西都原115号墳	さいとしおおあざみやけ 西都市大字三宅4802番地	45208				2019.11.1～ 2020.3.31	140㎡	史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
	古墳 近代		円墳（葺石） 1913年調査坑	須恵器・鉄製品 碑石				
だい1しぐんよこあなぼぐん 第1支群横穴墓群	さいとしおおあざみやけあざはらぐち 西都市大字三宅字原口3943番	45208				2019.11.1～ 2020.3.31	48.5㎡	史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
	古墳	古墳	横穴墓				谷筋に合計5基の横穴墓が存在することを確認した。	

特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書（X X II）

2020年3月31日

発行 宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）

〒880-8502 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号
（〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670）

印刷 北一株式会社

〒880-0903 宮崎県宮崎市太田3-1-31
TEL 0985(51)5100 FAX 0985(53)5640

